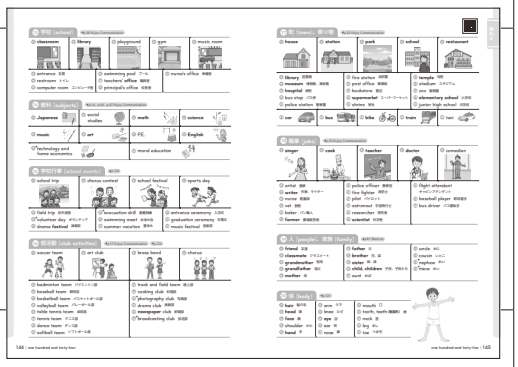
観点別特色の一覧

観点	具体例
1 教育基本法の遵守	●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての中学生に求められるコミュニケーション能力を育みます。**英語を学ぶことで身につく見方・考え方**が国や文化の違いを越えて人と人を結ぶ豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことをめざしています。（全体） ●国際社会の一員として、**自国の伝統・文化を尊重**するとともに、他国を尊重し、**国際社会の平和と発展に寄与する態度**を養うようにしています。（前見返しなど） ●教育基本法の第２条を遵守しています。（本資料p.4参照）
2 学習指導要領の遵守	▶「目的や場面、状況」についての意識を促すアイコン 目的・場面・状況 ●中学校学習指導要領（外国語科）に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成をめざし、その基礎となる**言語材料の知識と技能**を基盤として、生徒が自分で**思考し、判断**したことを適切に**表現**できることを**深い学び**ととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。（全体） ●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような**目的や場面、状況**で使われるかを生徒が理解することを重視しています。（Unit ５～10　Previewなど） ●英語で意思や情報を伝え合う**対話的な活動や協働して問題解決にあたる活動**を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。（Unit ５～10　Unit Activityなど）
3 内容・系統	●３年間の学びを見通した上で、中学１年生での到達点（ゴール）を示しているので、豊富な言語活動を通して明確な**到達点に向かって学習を進める**ことができます。（前見返し～p.1　「学習の流れをイメージしよう」、巻末口絵学習をふり返ろう―CAN-DOリスト―） ●全ての単元の冒頭に必ず到達点（ゴール）を単元の目標とセットで示しています。また、Unitの単元末活動として配置されたUnit Activityの最後にも同じ文で、振り返りや自己評価を行うチェック欄をアイコンとともに載せています。 ●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、**積極的に英語を使う授業の場づくり**に資するようにしています。 ●Unitの各パートのActivityを積み上げ、その**各パートで積み上げた「自分の言葉」を生かして、単元末活動のUnit Activityでまとめます**。さらには、**年３回設定されている大きなテーマを扱うStage Activityに向かって、活動を系統的に積み上げていく構成**です。 Activity（Unit内の各パート末）⇒（積み上げて）Unit Activity（単元末）⇒（積み上げて、複数のUnitを統合・総合して）Stage Activity（年3回）という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています。いずれも**パフォーマンス評価**を行うことができます。（本資料p.7参照） ●小中接続期の言語材料の配列について、生徒が構造上より理解しやすいようにまとまりをつけて配列し直し、整理・精選してUnitを１つ削減しました。令和３年度本：Unit １（be動詞 / 一般動詞 / can）→ Unit ２（This［That / He / She］is .... / 疑問詞 what・who・how）→ Unit ３（疑問詞 where・when / I want to / how many）→ Unit ４（命令文 / what time / what+名詞）→ Unit ５（前置詞 / 動名詞 / 不規則過去形）、令和７年度本：Unit １（be動詞 / 一般動詞）→ Unit ２（He［She］is .... / can / This［That / It］is ....）→ Unit ３（疑問詞 what・who・how・when・where / 前置詞）→ Unit ４（how many / what time / what+名詞 / 命令文）※ want to などは表現として扱い、文法事項として学習するのは夏休み後。 ●「夏休み特集」を新設し、GIGAスクール構想のもとで、アニメのデジタルコンテンツを活用することにより、自立した英語学習者の育成に向けた教材開発に取り組みました。
4 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）	◆組織・配列 ●全てのUnitは、既習事項を**スパイラルに学習**できる構成になっています。 Unit 0は小学校の学習を引き継ぎ、Unit １～４では小学校との関連を密接に図って「表現から文法へ」と理解を深め、Unit ５～10では中学で初出の文法を学習します。どのUnitも、音から導入して 文字に向かう順序で４技能５領域全てをバランスよく扱います。（本資料pp.6～7参照） ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツをいつでも参照できるように巻頭にまとめ、**生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成**することをめざします。１年生では、語彙を増やすための「辞書の使い方」や、知らない単語でも読み方を予測しやすくなるための「単語のつづりと発音」などを扱います。（pp.2～3） ◆分量 ●小学校英語が教科化されたことを重視し、また実社会で目にする英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、後半では中学校３年間で扱うべき組織や分量を想定して英文の量や活動の種類についても段階的に充実させています。（全体） ●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を**630語**と設定し、それに中学校の新出語**約1,700語**を加えた**約2,300語**を扱っています。（pp.130～139 Word Listまたは本一覧表p.9 4 の図参照）

観点	具体例
4 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）	●上記約2,300語のうち小学校既習語から**392語**、中学校新出語から**408語**の合計**800語**を**「発信まで使えるようになりたい語」と設定**し、Word Listで太字で示しています。この800語は、全ての生徒の**発信語彙**として繰り返し提示して定着できるようにしています。（下図★印参照） ●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含めることで、生徒の負担を軽減しています。（資料編Word Roomなど） **小・中学校で扱う語約2,300**語 ※★は「発信まで使えるようになりたい語」（合計800語） 小学校の既習語 **630語** **（★392語）** 中学校の新出語 **約1,700語** **（★408語）** 本文 約1,200語 本文以外 約500語
5 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの4技能5領域の定着の配慮	●CAN-DOリストに基づき、３学年を通して４技能５領域の技能を確実に育成できるようにバランスよく教材を配置しています。（本資料p.6参照） ●「Unit」・「Stage Activity」・「Real Life English と Let's Read」の３つの主要単元で、**知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成**をめざします。いずれの単元でも、言語を使用する**目的・場面・状況を意識して活動に取り組める**ような仕組みにしています。（本資料p.6参照）
6 資質・能力の対応	●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力を重視し、英語を通じて**異文化理解**を深めたり、**多様性**を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って**共生社会の実現**をめざす態度を育成します。（全体） ●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。１年生のテーマは、「中学校英語の世界へようこそ！」とし、小学校で初めて出会った英語を使って、さらにその先の中学校でも学び続ける楽しさを味わってほしい、そして**世界中の人との理解や共感を得られる英語学習への意欲**をより一層高めてほしいという願いを込めています。（全体） ●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた言語活動を扱っています。その言語活動を通して、使える英語が身につくようにしています。（本一覧表 p.8の3参照）
7 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニング、ALTとのTeam Teachingなど）	●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援教育への配慮をしています。紙面右上の二次元コードからは、本文と語句欄の音声のほか文法解説動画やデジタルクイズなどにもアクセスできます。（p.13 Unit 1、p.63 Unit 5など） ●**英語で授業**を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させたり、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけるためのSmall Talkのページを設けたりしています。（pp.157～160）また、**ALTとのTeam Teachingを重視**して、ALTと伝え合いたくなる話題を多く取り扱い、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。
8 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）	●資料編のWord Roomでは、**紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し**、自分が伝えたいことを表現するときに使えるようにしています。（本資料p.7参照） ●**授業以外の場でも英語の音声や動画を視聴できる**よう、二次元コードを付しています。（p.11 Unit 1など）二次元コードを利用できない場合は、前見返しに示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。
9 言語に関する配慮	●言語力育成への視点から、**国語との関連**を図っています。物語の読み方を扱ったページのすぐ後にLet's Readを配置し、物語の構成が読み取りやすくなるようにしています。（p.123 Learning Literature in English、pp.126～128 Let's Read） ●発表する際のポイントを示したり、メモをもとに発表する例を示したり、相手の発言に対して質問し、会話を続けてコミュニケーションを深める例を示したりしています。（pp.100～101、pp.124～125 Stage Activity 2、3など）
10 他教科との関連	●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として**他教科での学習を生かす**もの、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。（全体） ●「ダイバーシティメモ」などのコラムの充実を図り、様々な気づきから、本文への推論発問を引き出せるように工夫しました。（p.12 Unit 1など）
11 造本上の工夫（学習への効果）	●指導時間を配当するページは増やさず、**生徒が発信するためのヒントを探し出す資料**を紙とデジタルで手厚く用意しました。 ●A4判を採用し、デジタルでは対応できない**手書きでの書き込みスペース**を保障しました。（p.33 Your Turnなど）また、判型を大きくして写真等のレイアウトやデザインをダイナミックに、かつ見やすくしました。 ●ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された薄くても裏写りしにくい用紙を使用しています。 ●「夏休み特集」（pp.57～60）は紙質を本文用紙と変更しました。これにより、小中接続期と、夏休み明けの中学校英語で新出の三人称単数現在形などが加わるページとを生徒がしっかりと認識して学べるように工夫しています。



2 対照表

1年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所ページ	配当時数
			2 内容	3 指導計画の作成と内容の取扱い*		
Unit 0	Nice to Meet You 小学校のふり返り	小学校で習ったあいさつなどの表現	(1)、(3) ①ア		6～7	1
Unit 1	Hello, Everyone! 中学校生活の始まり	be動詞 / 一般動詞	(1)、 (2)、(3) ①アイウエオカ、②	(2) イエ (3) イ (ア) (イ)	11～17	6
Unit 2	Our New Teacher ALTのチェン先生	He [She, This, That, It] is .... / canの文			19～25	6
Unit 3	Our School 学校生活	What [Who, How, Where, When] ...? / 前置詞			31～37	6
Unit 4	Friends in New Zealand ニュージーランドの学校との交流	How many...? / What+名詞 [What time] ...? / 命令文(Come [Be, Don't] ....)			43～49	6
Unit 5	My Brother in Hawaii 兄の文也の紹介スピーチ	三人称単数現在形	(1)、(2)、 (3) ①イウエオカ、②	(2) エカ (3) イ (ア) (イ) (ウ)	61～68	7
Unit 6	A *Rakugo* Performer from the U.K. 英語で落語	人称代名詞目的格 / Whose ...? / mine [yours] / Which ...?			71～78	7
Unit 7	An Online Tour of the U.K. オンラインツアー	現在進行形 / 感嘆文			81～88	7
Unit 8	Think Globally, Act Locally 国際支援・水問題	want [try, needなど] to ... / look+形容詞			91～98	7
Unit 9	Winter Vacation 冬休みの過ごし方	一般動詞の過去形			103～110	7
Unit 10	This Year's Memories 中学校一年間の思い出	be 動詞の過去形/ 過去進行形 / There is [are]			113～120	7
Stage Activity	1. "All About Me" Poster		(1) ウ、 (2)、(3) ①イウエオカ	(2) カ	54～55	2
	2. My Hero				100～101	2
	3. My Favorite Event This Year				124～125	2
Real Life English	1. コマーシャル、2. 友達の家で、3. 道案内、4. レストラン、5. 旅先からの便り、6. 病院にて		(1) アウ、 (3) ①イウエカ、②	(2) イ	69、79、89、99、111、121	各1
Let's Read	Gon, the Fox		(1) ウ、 (2)、(3) ①ウ	(3) イ (ア) (イ)	126～128	3
Sounds and Letters	0. 英語の音と文字、1. 2字1音・母音字の名前読み、2. さまざまな母音①、3. さまざまな母音②、4. 音と文字のまとめ		(1) ア、 (3) ①ア	(2) イ	8～9、18、26～27、38～39、50～51	各1
Grammar for Communication	0. 英語の語順、1. be動詞と一般動詞、2. 疑問詞、3. 名詞、4. 三人称単数現在形、5. 代名詞、6. 現在進行形、7. 一般動詞の過去形、8. be動詞の過去形と過去進行形		(1) エ	(2) エ	10、28～29、40～41、52、70、80、90、112、122	各1 1と2は各2
Learning Literature in English			(3) ①イウ	(1) オ	123	1
						合計99

＊学習指導要領の内容「3　指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体について扱う。